

「気候変動を踏まえた都市浸水対策に関する検討会」第1回検討会資料等についての  
中北委員からのご意見

【日時】 令和2年1月10日（金） 13:00～14:30

【場所】 京都大学防災研究所（宇治キャンパス） 中北教授室

【主なご意見】

- 気候変動を踏まえた外力の設定においては、近年、都市部でのゲリラ豪雨の発生頻度の増加や継続時間の長期化する傾向にあることも踏まえて検討した方が良い。
- ゲリラ豪雨は、ヒートアイランドだけでなく気候変動による水蒸気等の増加等による影響も大きいと考えられる。
- 計画目標外力の検討では、技術検討会での検討データなど既存データを用いて、都市スケールを踏まえて整理した方が良い。
- 下水道では沖縄の気候変動の検討は行った方が良い。DIASのNHRCM02の約20年の計算データは沖縄を含んでいるので、検討に活用できるのではないか。
- NHRCM02（5km/2km）、d4PDF（5km）は、関東圏等の都市キャノピーモデルを反映しているか確認が必要。解像度の比較の際には、その観点も踏まえた方が良い。
- 次の出水期前のとりまとめにあたっては、現時点で明らかなことや早期に対応すべき事項と、検討に時間のかかる中長期的な視点で対応すべき事項とは分けて考えるべき。後者は必要に応じて時間を取って検討した方が良い。